



*研究企画部では、記事に関する皆様からのご意見ご要望をお待ちしております。

<主な内容>

- 吉村知事を迎えて令和2年度の「つや姫」「雪若丸」の稲刈りを行いました 1 ページ
- 新しい県産種雄牛「冬景21」と「美結喜」について 2 ページ
- 山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会研究者交流会を開催 3 ページ
- さといもの早掘り栽培の圃場見学会及び研修会を開催 4 ページ
- 若手研究員からの一言メッセージ 5 ページ
- コラム～秋のカメムシと冬の雪～ 5 ページ



吉村知事を迎えて令和2年度



9月17日（水）に農業総合研究センター内の圃場において、吉村知事とつや姫レディ、チーム雪若丸等による「つや姫」「雪若丸」の稲刈りを行いました。

例年は近隣の小学生なども参加して賑やかに稲刈りを行いますが、今年は新型コロナウイルス感染予防のため、吉村知事や関係者のみの少人数での稲刈りとなりました。

爽やかな秋晴れの下、かすりのもんぺ姿の吉村知事は、ずっしりと重く稔った「つや姫」「雪若丸」を、一株一株丁寧に刈取り、杭掛けを行いました。

山形の誇る、おいしい新米「つや姫」「雪若丸」を全国の多くの皆様に届けることができるように、当センターでは栽培技術の開発や食味向上技術の確立に取り組んでいきます。（土地利用型作物部）

「冬景21」と「美結喜」

ふゆかげ

みゆきについて

山形県では、和牛の改良と「総称山形牛」のブランド力の向上のため、優れた県産種雄牛の作出に取り組んでいます。このたび気高系の種雄牛として、新たに「冬景21」と「美結喜」が加わりましたので紹介します。

「冬景21」の父は増体優れる気高系の県産種雄牛「景勝21」、母は「ふゆみ」です。母の父の「美津福」は牛肉の食味評価が非常に高いことから、増体と食味を兼ね備える種雄牛として期待されます。

本牛の発育調査結果は良好であり、産子も大きく生まれ大きく育つことが予想され、子牛市場での高い評価が期待できます。産子の肥育調査の成績は、枝肉重量とロース芯面積（ロースの大きさ）は本県の歴代最高成績となりました（写真1）。

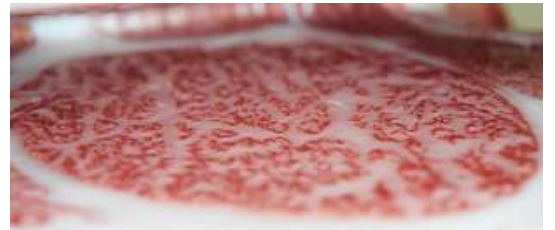


写真1 「冬景21」産子の枝肉

「美結喜」の父は全国的に評価の高い気高系種雄牛「百合茂」、母は脂肪交雑（霜降り）の推定育種価が県内でトップクラスの「みゆき」、母の父は肉質改良能力が高い「安福久」です。

本牛の発育調査結果は良好であり、また精液性状も良好なため高い受胎率が期待できます。産子の肥育調査の成績は、上物率（枝肉等級の上位割合）が本県歴代最高成績の95%であり、脂肪交雑は気高系県産種雄牛の中で最高成績となり質量兼備の種雄牛といえます（写真2）。

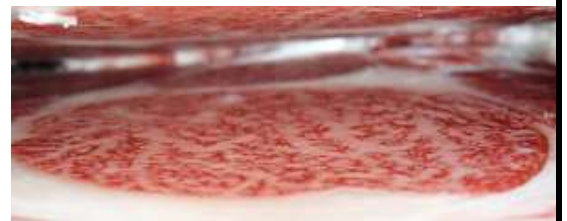


写真2 「美結喜」産子の枝肉

現在、「冬景21」と「美結喜」の人工授精用凍結精液は需要増加を見込んで増産中です。できるだけ多くの繁殖農家・一貫農家の皆様から利用していただくことで、山形生まれ山形育ちの子牛の生産拡大につながることを期待しています。

冬景21

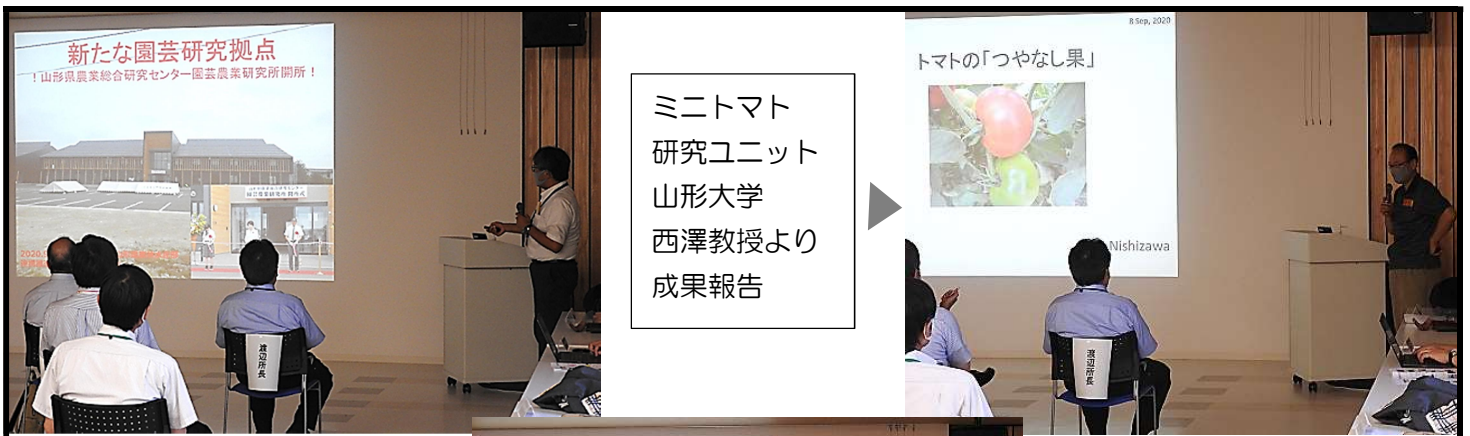


- ★H26年4月15日
酒田市尾形英樹さんの
農場で誕生
- ★優れた増体能力
- ★子牛も大きく育ちます

美結喜



- ★H27年4月15日
米沢市須藤省三さんの
農場で誕生
- ★精液性状良好で高い受胎率
が期待されます
- ★本県歴代最高上物率！



ミニトマト
研究ユニット
山形大学
西澤教授より
成果報告



園芸農業研究所 石黒副所長
より園芸農業研究所の紹介

地域飼料資源活用研究
ユニット
畜産研究所秋葉開発研究
専門員より成果報告



山形大学農学部 × 山形県農林水産部

連携推進協議会

研究者交流会を開催

令和2年9月8日、園芸農業研究所を会場に山形大学農学部と山形県農林水産部の研究連携・研究人材の養成・交流活動の推進を図ることを目的とする山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会の研究者交流会を開催しました。

まず初めに平成二十九年度から進めていた施設整備が完了した園芸農業研究所の紹介を行いました。その後連携ユニット活動報告として、「トマトの「つやなし果」について」と、「地域飼料資源活用研究ユニットの活動報告」の発表を行い、研究交流による成果を報告しました。

また、参加者のうち希望者を対象に園芸農業研究所の施設見学を行いました。参加者からは、新しい設備や分析機器を前に「手間がかかっていた調査がはかどるようになるのではないか」、「新たな分析ができるようになる」といった感想が聞かれ、連携ユニットの新しい提案が期待される機会となりました。



さといもの早掘り栽培の 圃場見学会及び研修会を開催



庄内産地研究室

庄内産地研究室において8月20日（木）に、さといも早掘り栽培の圃場見学会及び研修会を開催したところ、管内外の生産者及び関係機関の担当者約30名が参加しました。

この圃場見学会及び研修会は、さといもの早掘り栽培に関する研究成果を伝えるとともに、県産さといも需要に対応し、県内のさといも生産振興に寄与するために、平成30年から同時期に開催しています。

圃場見学会では、お盆需要に対応するため8月上旬からの出荷を目指した早掘り栽培の生育経過に加え、今年から試験を開始した種芋の増殖方法に関する試験経過について紹介しました。また研修会では、これまでの研究で確立した早掘り栽培体系、掘り上げた株の乾燥および貯蔵方法について紹介しました。参加者からは、機械掘りを想定した茎葉の刈払い方法、収穫後の分割手順、育苗期間中の温度管理に関する具体的な質問が相次ぎ、関心の高さがうかがわれ、有意義な研修会となりました。その他、園芸農業推進課からさといも生産振興プロジェクトで作成した「さといも出荷規格表」の紹介があり、等階級及び出荷上の注意点について理解を深めました。

今後も当室では現場の皆さんとともに試験研究に取り組むとともに、研究成果を速やかに紹介し、現場の皆さんが儲かる技術の提案を継続していきます。



若手研究員からの一言メッセージ

農業総合研究センター
水田農業研究所
研究員 齋藤 亮平

今年度から新規採用職員として水田農業研究所で水稻の育種を担当しています。担当する主な業務は高温登熟耐性や穂発芽性の検定試験や F2 世代の養成です。9 月以降は優良な個体・系統を選抜する時期となり、稲刈りと並行しながら検定の準備も進めており、毎日が目まぐるしく過ぎていきます。



今年特に大変だったこととしては、9 月前半の残暑厳しい時期に、

私も「コシヒカリ」のように倒れそうになりながら稲刈りしたことです。このため来年はファン付き作業服の購入を検討しています。

こういった苦労もありましたが、先進農家体験研修にて実習先の生産者の方から、『「つや姫」のように名実の伴った品種ができたことで消費者にアピールしやすくなった。「雪若丸」も他の品種にはない良さがあり、育て甲斐がある。』と言った生の声を聴いて、研究所での大変な作業も生産者の方に喜ばれていることを実感できました。

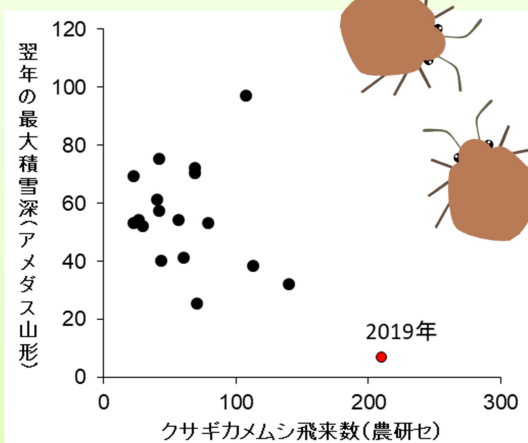
今後、生産者の皆さんの期待に応えられるよう頑張っていきたいと思います。

コラム

～秋のカメムシと冬の雪～

「秋にカメムシを多く見かけると、その年の冬は大雪になる。」と聞いたことはないでしょうか。昔の人の経験則かもしれませんが、実際はどうなのでしょう。

2002 年～2019 年の秋に農業総合研究センターに飛来したカメムシの数と、翌年の最大積雪深の関係を右図に示しました。この図では、カメムシが多い＝大雪とは必ずしもならなそうです。当センターでは昨秋カメムシを大量に見かけましたが、記録的少雪でした。



今年度もカメムシをよく見かけていますが、今年の冬の降雪はどうなるでしょうか。雪が苦手なので気になるところです。